

14. 肺線維症における ^{133}Xe 局所洗い出し曲線の検討

○南 幸諭 志田 晃
 本間 行彦 大崎 饒
 村尾 誠
 (北大・1内)
 古舘 正従
 (同・放)

原因不明の肺線維症 (IPF) 5 例に ^{133}Xe 静注法による洗い出し検査を行なった。70%洗い出し時間は、上中下肺野共に短縮していたが、正常者のパターンと比較すると、上肺野での洗い出し時間の短縮の割合が下肺野のそれより大であった。IPF において全体的に洗い出し時間が早い原因として、呼吸数の増加、肺活量の減少、肺弾性収縮力の増大などが考えられる。一方、上肺野の洗い出し時間の短縮に比べ下肺野の洗い出し時間の短縮が少ないことは、下肺野に末梢気道閉塞が存在するためか、あるいは、前記原因のみでも起こりうるものかを、IPF 2 例、IPF と呼吸生理学的に同じ病態を示した膠原病に伴う肺線維症例について検討した。その結果、呼吸数の増加、肺活量の減少、肺弾性収縮力の増大の程度が大きいほど、上肺野の洗い出し時間の短縮がより大となる傾向を示し、必ずしも下肺野に末梢気道閉塞がなくても起こりうる可能性が示唆された。

15. 慢性甲状腺炎における ^{131}I と ^{201}Tl -Chloride シンチグラフィーの比較について

坂本 治 佐野 博昭
 (旭川厚生病院・内)
 前田 淳一
 (同・放)

われわれは慢性甲状腺炎患者について ^{131}I と ^{201}Tl -Chloride シンチグラフィーを施行し、いくつかの知見を得たので報告する。

対象：当院甲状腺外来を訪れ、橋本病研究班の診断基準により診断された27人である。

方法： ^{201}Tl -Chloride 2 mCi 静注し、20分後撮影し、その後1週間ヨード制限をし、 ^{131}I 100 μCi 投与、24時間後 ^{131}I シンチグラフィーを行なった。なお、撮影には Nuclear Chicago Pho Gamma HP、ピンホールコリメーターを使用した。

結果：各シンチグラムを4群に分けることができた。 ^{131}I は、I. 甲状腺シンチグラフィー像が得られないもの、II. 画像の全体が不均一、辺縁が不鮮明、III. 変形、欠損像、IV. びまん性良好な像、 ^{201}Tl シンチグラムは、I. 像の得られない、II. 像が不鮮明、IV. 像がやや悪い、明瞭な像が得られるもの、とした。

^{131}I シンチグラムはI~IIIに属する例が約70%みられ、甲状腺機能低下の強度なものほどI群に属する例が多かった。組織所見から検討するとI~III群はFibrous typeに属する例が多かった。一方 ^{201}Tl シンチグラフィーはIII, IVに属する例が78%であり、甲状腺機能低下の程度、組織所見とは無関係に比較的良好な画像が得られる例が多かった。同一症例について ^{131}I と ^{201}Tl シンチグラムを比較検討してみたところ、両シンチグラムの所見が異なる例は27例中17例あり、その10例は ^{201}Tl シンチグラムの方が良い画像と思われた。

16. 慢性甲状腺炎の核医学的診断

大久保 整 久保田昌宏
 湯川 元資 森田 和夫
 高橋貞一郎
 (札幌大・放)
 黒崎 和夫 村山 憲一
 今野 晋作
 (同・中)

病理組織診断の確定した慢性甲状腺炎例の ^{201}Tl 甲状腺シンチグラフィーを検討した。

^{201}Tl 2 mG 静注、10分後に甲状腺シンチグラフィーを行なった。7例の ^{131}I または ^{123}I による甲状腺シンチグラフィーでは全例に cold または warm area が認められた。

^{201}Tl による甲状腺シンチグラフィーでは、こ